

國際聯盟ノ行動ニ關スル觀察

昭和六年十月十四日
參謀本部 第二部

國際聯盟理事會カ規約第十一條以外ノ條項適用ヲ要求スヘシトノ豫想ヲナスモ
ノアルカ從來帝國ノ開示シタル主張ヲ變更スル何等ノ理由ヲ認メナイ
理事會カ從來ノ決議ヲ以テ不十分ナリトスル最大理由ハ所謂錦州爆發事件ノヨ
ウテアルカ之ハ一ノ派生的事態ニ過キサルノミカ支那側ノ軍事行動ニ對スル對
應手段テアツテ帝國ハ理事會ノ決議ノ趣旨ヲ忠實ニ實行シツツアリ形勢惡化ノ
情況ヲ認メ難イ

若シ決議條項カ十月十四日迄ニ全部實施スルモノト豫想シテ居タモノトスレハ
理事會カ現状ニ無知ナル結果テアリ假スニ相當ノ日子ヲ要スヘキコトヲ十分ニ
知ラシメル必要カアル支那代表支ケカ以上ノ見解ヲ持シテ居タモノテ一般理事
國ハ同期日前ニ必ス原狀回復カ實現スルモノナトトハ豫想シテ居ス單ニ情報ヲ
知ル爲ノ次回ノ會合期日ニ過キナカッタノテアル

元來紛争事件ハ當事國間ノ外交接衝ニ據ルヲ原則トスルモノテ帝國ハ常ニ外交
交渉ニ應ズル用意アルモノテアルカラ此際理事會ハ前回ノ決議ニ止マツテ事態
ヲ更ニ靜觀スレハ足り兩國間ニ國交斷絶ノ虞アルカ如キ見解ヲ持スルコトハ徒
ニ兩國民ノ感情ヲ刺戟シ却テ事態ヲ惡化セシムルモノテアル
要スルニ錦州爆發ノ經過カ理事會ノ行動ニ一歩ヲ進メシムルモノトスレハ理事

0046

